

3歳児は 人の目を気にする？

Zanka Masako

残華 雅子

奈良教育大学 ESD・SDGsセンター

3 歳児は人の目を気にする？

奈良教育大学 ESD・SDGs センター 残華 雅子

1. はじめに

みなさんはこんな経験がないでしょうか。友達がくれた手作りお菓子がイメージだけど「おいしい」と笑顔を見せた、みんなと意見が合わないけれど「私もそう思う」と頷いてしまった、などなど。そんな本音を隠してしまった経験は誰にでもあるものです。人がなぜ、本音を言えなくなってしまうのかというと、それは「本音を言うと人からどのように思われるのか」を気にするからです。もしくは「他人は、自分にどのような態度を期待しているか」という空気を（頼まれたわけでもないのに）読むからだといってもいいかもしれません。仮に、自分以外絶対に誰も見ない日記帳にその日の出来事を綴るのであれば、「あのクッキーはおいしくなかった」「みんなはああ言っていたけど絶対違う」と自分の本音を書けると思います。それは、自分の本音を他人に知られることがない、つまり他人にどう思われるかを気にしなくていいからです。多かれ少なかれ、人は誰しも「目の前の人に自分がどう思われるか」を推測し、「他人からみられたい自分」を演じます。これを「印象管理」といいます。では、このような「他人の目を気にした振る舞い」は何歳ごろからみられるのでしょうか。

2. 幼児は大人の言うことを信じすぎる？

Jaswal et al. (2010) は 3 歳児を対象に以下の実験を行いました。実験者と子どもの間に赤色と青色の 2 色の箱を置き、子どもにはどちらかの箱に隠されたシールを見つけることを求めます。実験者は子どもからは見えないように赤

色の箱にシールを隠した後、「シールは青色の箱に入っているよ」と伝えます。つまり、子どもに対して嘘をつきます。それを聞いた子どもは、わざわざ嘘をつかれているとは思わず、その言葉通りに青色の箱を開けます。もちろんシールは入っていません。見つけれなかったので、実験者は子どもの目の前で青色の箱を開けてシールを取り出し、シールを没収します。子どもの目の前でシールを取り出すことで、子どもにも嘘をついていたことを明らかにした後、実験者はまた子どもからは見えないようにシールを隠します。今度は青色の箱に隠して「シールは赤色の箱に入っているよ」と嘘をつきます。子どもはどちらを探すでしょうか。また、あなたがこの子どもの立場だったらどちらの箱を探しますか。

この実験では繰り返し 8 回、「シールが入っていると実験者に教えられた箱にはシールが入っていない」という嘘をつかれる経験を子どもに与えました。その結果、3 歳児は 8 回中で平均 6 回以上、実験者に教えられた箱を選びました。つまり 8 回繰り返し嘘をついた相手に 6 回以上騙され続けました。この結果から、Jaswal et al. (2010) は 3 歳児には人の言っていることを鵜呑みにし、何度騙されても信じてしまう過信傾向があると結論づけました。

しかし、子どもが実験者に教えられた箱を開ける理由として考えられるのは、「教えられた箱に入っていると信じているから」だけではありません。先に述べたように、人の目を気にして、信じたふりをしてあげていることが考えられます。教えられた箱とは違う箱を開けると、目の前の実験者に助言を無視したと思われたり、逆らったと思われたりして、礼儀正しくない子、言うことを聞かない子などとみなされてしまうかもしれません。そのような事態を避けるために、子どもが敢えてシールが入っていないと分かっている箱にシールが入っていると信じているフリをしているという可能性が考えられます。

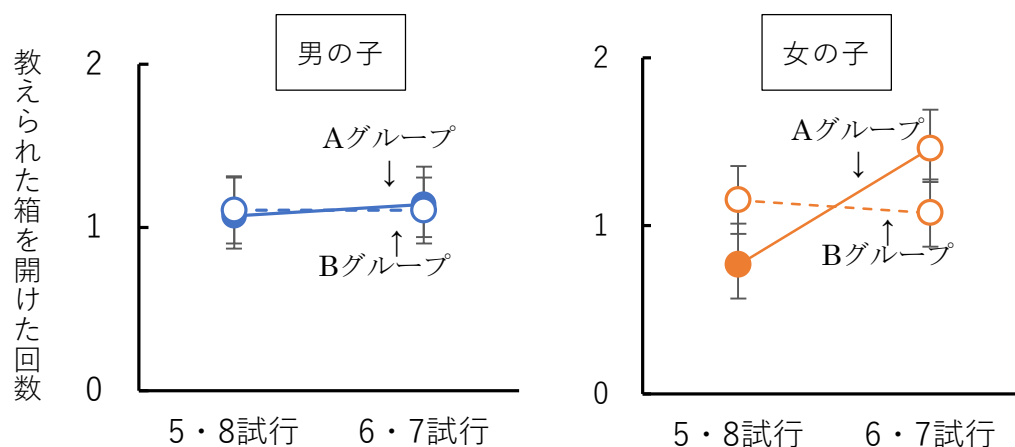
子どもが実際に大人の言うことを信じているのか、それとも信じたフリをしてあげているのかについて調べるための実験を行いました(残華・青山, 2020a)。この実験では、実験者が子どもの箱を開ける様子を見ている場面と、見ていない場面を設定しました。Jaswal et al. (2010) の実験のように、実験者が子どものことを見ているのであれば、子どもは実験者にどう思われるかを考えて箱を開ける可能性があります。しかし、実験者が子どものことを見ておらず、実験

者の言葉に子どもが従ったかを実験者が知ることができないのであれば、わざわざ間違っただ箱を選ぶ必要はありません。つまり本音のままに正解だと思う箱を開けるだろうと考えられます。実験では、2つの色の違う箱のうち、シールが入っていない方の箱にシールが入っていると実験者は子どもに伝えました。そして実験者に見られている状態か、見られていない状態で、子どもにシールが入っていると思う箱を開けてもらいました。このような試行を8回、以下の表のような流れで繰り返し行いました。

	1～4 試行	5・8 試行	6・7 試行
A グループ	見られている	見られていない	見られている
B グループ	見られている	見られている	見られている

このようにしてAグループでの5・8試行と6・7試行での子どもの箱の選び方の違いと、AグループとBグループでの5・8試行での子どもの箱の選び方の違いを調べました。

男の子と女の子それぞれの結果が以下になります。縦軸が実験者に教えられた箱を選んだ回数になります。丸同士をつなぐ線が実線なのがAグループ、点線なのがBグループです。白い丸(○)のところ、実験者に見られながら選択を行った場面で、子どもが実験者に教えられた箱を開けた回数、塗りつぶされている丸(●)のところ、実験者に見られずに選択を行った場面で、子どもが実験者に教えられた箱を開けた回数になります。



男の子はどの丸も同じあたりにあることから、実験者に見られているかどうかにかかわらず、2回のうち1回程度教えられた箱を開けていたことが分かります。女の子の方では●の方が○よりも低い位置にあり、つまり実験者に見られていないときの方が、見られているときよりも教えられた箱を開けず、シールが入っている正しい箱を開けていたことがわかります。統計的分析を行っても、偶然より高い確率で女の子は5・8試行で実験者に見られているときの方が、6・7試行で見られていないときよりも教えられた箱を開けていたという結果になりました。まとめると、この実験では、男の子は実験者に見られていても見られていなくても選択が変わらなかったため、実験者にどう思われるかを気にしながら箱を選んでいないということが示されました。一方で女の子は実験者に見られていなければ、実験者に教えられた箱とは逆の、シールが入っている箱を選べるにも関わらず、実験者に見られていると、実験者に教えられたシールが入っていない箱を選んでいたので、実験者にどう思われるかを気にして、あえて不正解の箱を選んでいたことが示されました。

このような結果を聞くと「男の子とは違って、女の子は生まれながらにして他の人の目を気にするといった社会性を身に着けているのか」と思うかもしれませんが、そうとは言い切れません。この男女差は、女の子の方がより礼儀を重視した教育を受けてきたという環境によるものかもしれませんし、この実験の実験者が女性だったため、実験者が同性である女の子の方が、男の子よりも「実験者と仲良くしたい」という気持ちが強かったのかもしれません。

この他にも、自分のお父さんやお母さんに見られていると、見られていることを気にして、実験者の言った箱を選ぶようになるかを調べる実験を行いました(残華・青山, 2020b)。その実験では、男の子も女の子も同様に、お父さんやお母さんに見られているときの方が、見られていないときよりも教えられた箱を開けていました。どうやら男の子も女の子も自分の親に見られていると、その目を気にして選択を変えるようです。

3. おわりに

もちろん、「どのように振る舞えば他人にどう思われるのか」を3歳児が大人と同じレベルで具体的にイメージして行動しているとまでは言えません。実際

5歳ごろになると、教えられた箱とは逆の箱をすぐに選ぶようになることもわかっています。皆さんが同じ課題を行ったら、むしろ「騙しているように見せかけて、実は本当のことを言っている」という裏の裏の可能性まで読み、入っていると教えられた箱をあえて開けるかもしれません。このように考えると、この時期の子どもには、この時期だけの見え方や考え方があようです。3歳児が他人の視線から何をどこまで予想できているのか、何歳ごろ大人と同じレベルに達するのかといったことを述べるには、更に研究を行い、明らかにする必要があります。

子どもが人の目を気にしているといわれると、「子どもは素直で純粹無垢だと思っていたのに」とがっかりしてしまったり、「3歳児でも空気を読んで大変だな」とため息をつきたくなったりするかもしれません。しかし、このように他者の目を気にして行動を変えることができるのは、「何をされると、人は喜ぶのか、悲しむのか」といった人の気持ちを想像する能力や、「何をすると、その後何が起こるのか」といった未来を見通す能力、「自分は他者にとってどんな存在か」といった人との繋がりの中で自分を見つめる能力が育っているからこそであり、子どもたちの成長の一側面とも言えます。成長過程にある子どもたちの、その時期にしか現れない考え方や行動に少しでも興味を持ってもらえれば幸いです。

[引用文献]

- Jaswal, V. K., Croft, A. C., Setia, A. R., & Cole, C. A. (2010). Young children have a specific, highly robust bias to trust testimony. *Psychological Science*, 21, 1541-1547.
- 残華 雅子・青山 謙二郎 (2020a). 幼児が不正確な言語情報に従う傾向への情報提供者の観察の影響 *心理学研究*, 90, 621-627.
- 残華 雅子・青山 謙二郎 (2020b). 誤った言語情報に 3 歳児が従う傾向への保護者の観察の影響 *行動科学*, 59, 13-20.

残華 雅子 (Zanka Masako)

2021年 同志社大学大学院 博士後期課程 修了
2021年 同志社大学 特任助手
2021年 奈良教育大学 次世代教員養成センター 特任助教
2022年 奈良教育大学 ESD・SDGs センター 特任助教

【研究テーマ】未就学児を対象に、「他者にどのような人だと思われたいのか」といった印象管理に基づく行動を研究しています。子どもは他者にどのような印象を与えたいと思って振る舞っているのか、それは発達段階によってどのように変わっているのか、調べることを目指しています。

【趣味】ドラマ、映画、小説、漫画、アニメ、コンテンツ問わず物語に触れることが好きです。

【好きな小説】辻村深月「ぱっとしない子」自分の、他人の、見えている世界がいかに狭く不確かかということが身に沁みます。

【座右の銘】When you run into something interesting, drop everything else and study it. (*B.F. Skinner*)

3歳児は人の目を気にする？

著者 ざんか まさこ
残華 雅子

2022年4月1日 第1版

奈良教育大学出版会

〒630-8528

奈良市高畑町

TEL: 0742 (27) 9343 FAX: 0742 (27) 9147

E-mail: g-kenkyu@nara-edu.ac.jp

URL: <https://www.nara-edu.ac.jp/PRESS/>